

## 解 答

- 一 問一 今は二株だけが残された櫻の木や崩れ残った土塀を見ると、ここを舞台に遠い昔から繰り返されてきたさまざまな出来事が、あれこれ思い浮かべられるということ。
- 問二 下手ではあっても、絵を描いてみたいと強く思う気持ち。
- 問三 絵ごころ
- 問四 (1) スケッチしようとしてものを見ると、それまで見なれていたものが見なれぬものに一変する。そして、ものをじっくり見ながら、時間をかけ、手を動かして描いていくことで、記憶にしっかり焼きつけることができると思うから。
- (2) 崩れ残った土塀をじっくり観察しているうちに、単なる土塀が違ったものに一変し、自分の考えを深めていくということ。
- 問五 ① 花盛り ② 傷 ③ 域 ④ おして ⑤ 収納
- 二 問一 周囲を気にして自分を取りつくろうようなことはせずに、自分らしく誇りを持って生きていく状態。
- 問二 みんなに合わせて同じようにふるまうことで、ほんとの自分を押し殺し、見失ってしまうことになるのではないかな。
- 問三 自分自身のこころに正直に、自分の言葉で「ほんとのもの」を表現しようとすると、周囲の人々と自分との本質的な違いを際立たせることになる。これまでその違いにむしろ優越感を感じ、他人を見下していた「杉子」だったが、みんなが楽しくて、しあわせだと感じていることを同じように素直に喜ぶことができない自分が少数派であることを強く意識し、このまま社会になじめずに孤立していくことに、孤独と不安を感じはじめている。